

平成 20 年 1 月 10 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

## 中斎塾 東京フォーラム

### 平成 20 年 第 1 回講話

明けましておめでとうございます。

「年末年始、嘘をつかなかったと胸を張って言える方、どれくらいおられますか」

昨年を漢字で表すと「偽」という文字でしたが、我々は偽りなき人生を送りたいと思います。“今日一日嘘をつかなかった”と夜寝る時に思うと、清々しい気分で眠ることが出来ます。ですから一年間習慣にして戴くと、会社も個人の日常生活も順調にいくと思います。嘘をつくと心が後ろめたいので、動きも偽りを重ねてしまう。嘘はどうしてもそういう効果がありますから、嘘の重ね塗りにならないように気をつけようではありませんか。

年末年始私は自宅で過ごしました。

警備会社ですから年末年始は特に忙しいのです。私は 40 年間年末年始を自宅で迎えたことがありませんでした。しかし新しい社長に会社を任せましたので、今年は年末年始も会社には行かずに全部任せる姿勢をとりました。

結果として、DVD を 6 本見ました。家内と一緒に映画も見に行きました。「24-TWENTY FOUR-」にはまりました。他にも、Wii ウィーでボクシングや野球、スキー、テニス・・・等々のゲームをテレビの前で一所懸命やりました。

今お話したのは、知識の部分です。「24-TWENTY FOUR-」「Wii」等、皆さんはご存知でしょうか。私は意識して最近の流行のものを吸収しようとしています。そして吸収したものを又お話しする。これは努力をしないとできません。

今年の私の標語は「慌てず・騒がず・ゆっくり・ゆったり」そして最後に「深呼吸」です。深呼吸は、最初に息を吐いて、それから吸います。何事も出すのが先です。

基本哲学の「知足」について申します。

今年は出来れば新聞・テレビ・雑誌等で「知足」「足るを知る」という言葉を意識して見

て戴きたい。そして教えて戴きたいと思います。「足るを知る」という言葉は最近、コラム等によく使われています。

では、本日の「心に残る言葉」をご紹介します。

本日は安岡正篤先生の『干支の活学』からご紹介します。

**本来の干支は占いではなく、易の俗語でもない。それは、生命あるいはエネルギーの発生・成長・収蔵の循環過程を分類・約説した経験哲学ともいうべきものである。**

『干支の活学』安岡正篤著 プレジデント社

これは毎年『郷学』で、渡辺五郎三郎先生が今年の干支について書いておられます。関西師友協会でも同じように出しています。

私も、季刊誌「知足」に今年の干支について書きました。ですから今日本の国の中では、今年の干支について発表しているところが三団体あるわけです。

先ほどお話しした渡辺五郎三郎先生は、安岡正篤先生の『干支の活学』を読んで勉強されたそうです。ですから書き方も、安岡先生を意識して書いておられるようです。

私は別の書き方で干支について書いています。それは、60年前の日本を調べました。そして60年後の日本を調べました。

ご存知のように干支は、十干(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)十二支(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)の組み合わせで60通りです。ですから60年周期という説です。安岡先生は干支学を経験哲学と言っておられます。占いではありません。人類(特に中国の人達)が毎年毎年どのような世の中だったかという事をずっと書き残してきたものを、分析した学問だとお考え戴くとよいでしょう。

今年の干支は戊子(つちのえね・ぼし)です。

私はまず、文字をじっくり見ます。そこから浮かんできたものから分析をしてまいります。「戊」は縛れる、「子」は増えるという意味ですから、縛れに縛れた昨年が今年は更に酷くなります。縛れに縛れて縛れきった問題が、今年は鼠算的に増えると理解しています。

昨年は、様々な「偽」の問題がありました。

具体的なもので申しますと、サブプライムローンもその一つです。プライムローンとは固定金利です。サブプライムローンは変動金利が非常に多い。30年もので見ると、最初の2年間だけ低金利で、残りの28年間は高金利に跳ね上がります。2年間だけ低金利ですか

ら、何とか返済が出来たアメリカの低所得層の人たちは、2年後は高金利に跳ね上がりますから払えるわけがない。つまり毒入りきのこを出した食事のようなもので、2年経ったら高金利のものが表面化するわけです。サブプライムローンは地雷が含まれた債権で、これが全世界にばらまかれて爆発したわけです。サブプライムローンは日本で言えば、バブルが弾けたようなものです。バブルが弾けた時、日本の金融機関はどんどん合併しました。これはアメリカの金融機関も同じです。アメリカの金融機関は潰れてもおかしくない状況になりました。日本の場合は国家のお金が注入されました。ところがおかしなことにアメリカの場合、中東を始めとした諸国のお金が入りましたし、シンガポールやロシアのお金も入っています。これは違う見方をすれば、ドルを基軸通貨から落とそうという考え方をお持ちの方々がいて、世界的にそのような動きがあるのではないか。ドルが基軸通貨であれば、もう儲からないと思う方々が仕掛けたものであるという言い方も、現実に大きな説としてあります。ドルの基軸通貨が終ると、今度はアフリカが基軸通貨になりたい、ユーロ圏と同じようなものを作りたいという動きが出ているし、アジアも同じようなことを考えた動きが出てきています。したがってこれからアメリカはどんどん落ちていく。大恐慌にならないで、アメリカだけが落ちるといふ流れになりそうな気がします。日本は色々な基軸圏には入らないで、孤立化するだろうと思っています。

今年日本が更に纏れに纏れたものが更に纏れきると申しましたが、サブプライムローンを見ても、それが表れています。

他にも、前回申しました鳥インフルエンザの新型が出ます。厚生省の予測では3200万人が感染し、64万人が死亡すると発表されています。オーストラリアのロウイー研究所の発表では、日本人は210万人が死ぬという発表をしています。致死率60%と言われますから、凄まじい死者が出るだろうと思います。もし感染が確認されたら、自分の家に1ヶ月分や2ヶ月分の食糧の備蓄が必要であろうし、それなりのマスクやうがい用の薬も用意しておくべき必要があります。

又、今年はブリックスが新しいことを仕掛けます。特にブラジルはIMFの借金を全部完済したようです。ロシアは借金を完済したら態度が実により大きくなりました。ということで、ブリックスに対する注意が必要になってきました。

温暖化現象は更に問題になるでしょう。どうぞ色々なマスコミの報道がなされていますから、是非お考え戴き、手を打って戴きたいと思います。私は去年は経済破綻の国々を回り

ました。今年は温暖化の現象で、国が消滅しかねないというブータンに行って来たいと思っています。このブータンではGNH（国民総幸福量）が判断基準であると言いだめた国です。

国内については、少子高齢化と人口減が問題になっています。少子高齢化で見えない部分が人口減です。非常に怖い問題は、日本の20代の若者が海外流出にどんどん行っています。優秀な頭脳が国外に流出しています。これが日本の隠れた大きな問題だと、日本総合研究所の主任研究員が発表しています。

それからインフレとデフレのねじれ現象があります。自分たちの身の回りで考えれば、身の回りの必需品はどんどん値上がりします。給料は横ばい、もしくはダウンです。春闘で賃上げを狙うと言っていますが、大企業のごく一部しか恩恵を被りません。大多数の中小中堅零細は出来るわけがないのです。ですから新聞・テレビは嘘をついています。偏向報道をしています。デフレの方は、大きくて重たいもの、耐久消費財はどんどんまだ値下げします。新聞・テレビ等で今、スタグフレーション（不況下における物価高）と騒がれていますが、決してスタグフレーションではないと思っています。今での経済学にない現象が起きています。インフレとデフレが同時発生です。スタグフレーションという言葉では言い表せない現象ですから、よく注意して眼を見開いていないといけません。

そして格差社会はどんどん広がります。

自給自足も39%を割ったようです。東北大学の学生が、39%の自給率でどういうものが食べられるか、実験をして学生食堂で一般に紹介したと新聞に書いてありましたが、芋ばかりでした。

結論を申しますと、纏れに纏れた今年は、それだけ酷い問題が沢山起きる。私はそれらを踏まえてこう考えています。問題がこれだけ起きるのだったら、<手ぐすね引いて待ち構えよう>と思っています。どんどん悪いものが出てきたら、全部受け止めて、全部片付けようではないか。問題が来た時に「わあ、大変だ」と逃げるのではなく、事前に待ち構えていれば対処できます。ですから私は今年は、自分自身、手ぐすね引いて待ち構えるつもりです。是非皆様方もご自分で、問題だと思うものについては、手ぐすね引いて待ち構えて下さい。そうすると対応が十分可能だと思います。

本日は以上で終了致します。有難うございました。